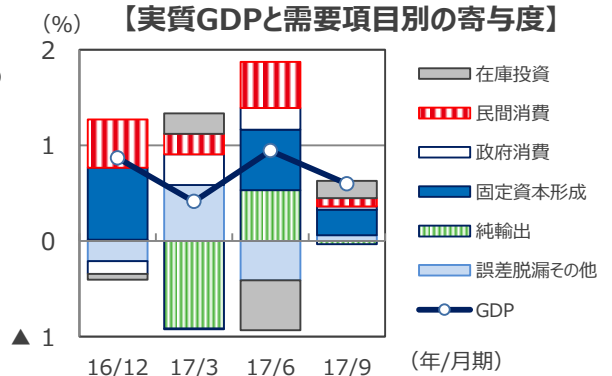


今日のトピック 豪州の金融政策は15会合連続の据え置き (2017年12月) 景気は堅調に推移、7-9月期の実質GDP成長率は+0.6%

ポイント1 景気は拡大基調を持続 7-9月期成長率は前期比+0.6%

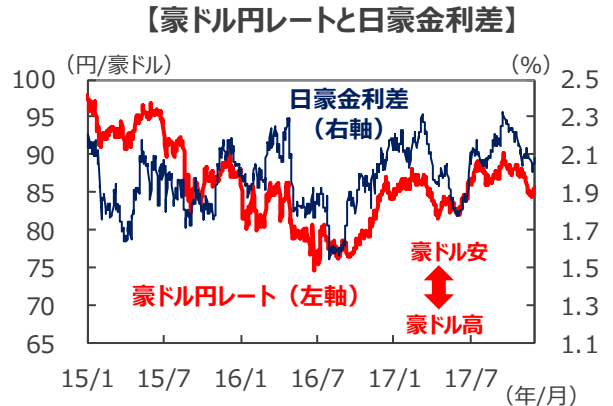
- 2017年7-9月期の豪州の実質GDP成長率は、前期比+0.6%となりました。年率換算すると+2.4%となり、市場予想の同+2.8%には及ばなかったものの、拡大基調は維持しました。
- 所得の伸び悩み等による民間消費の鈍化を、資源価格の持ち直しを受けた鉱山関連の設備投資の復調や、輸出の続伸等で吸収しました。
- 雇用が順調に増えていることから、個人消費は今後、復調する見通しです。このため、17年の成長率は+2%台前半となる見込みですが、続く18年には+3%近傍まで加速すると予想されます。



(注1) データは2016年10-12月期～2017年7-9月期。
 (注2) 実質GDPは前期比。需要項目はGDP成長率に対する寄与度。
 (注3) 固定資本形成 = 設備投資 + 住宅投資。
 純輸出 = 輸出 - 輸入。
 (出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 金融政策は現状維持 予想通り1.50%で据え置き

- 豪州準備銀行 (RBA) は12月5日に開催した金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利を1.50%に据え置く決定をしました。
- インフレは直近7-9月期で前年同期比+1.8%と、依然としてRBAの目標値である+2%を下回っていますが、RBAは景気の持続的な拡大に伴い目標値に向かって加速するとの見方を維持しました。現状ではRBAが政策金利を変更する必要性は低く、当面、金利は据え置かれると考えられます。



(注1) データは2015年1月2日～2017年12月5日。
 (注2) 金利差は豪州 - 日本。金利はともに3年国債利回り。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ

- 足元の豪ドルの対円相場は軟調な展開となっていますが、資源価格の持ち直し等から豪州経済の成長率加速や、国際収支の黒字基調継続が予想

されること、日豪の金融政策の方向性が異なること (日銀は緩和姿勢維持、RBAは据え置きの見通し) 等を踏まえると、豪ドルは対円で底堅く推移すると予想されます。

ここもチェック! 2017年11月27日 堅調に推移する豪州経済 (2017年11月) 2017年11月 7日 豪州の金融政策は引き続き据え置き (2017年11月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。